



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

90.9.28 No. 3286

国労会館に300名結集！国労闘争団との連帯誓う 9/24 国労会館



仲間の信に勝利の旗を掲げよう

反撃の秋へ

九・二四「総決起集会」は、三百名の働く仲間が国労会館をうづめ尽くしかつてない熱気と感動の集会として大成功を勝ちとった。

集会には、北海道、九州、本州の八つつの国労闘争団が参加し切々と、そして、熱烈に決意・連帯を表明し、全参加者の心を熱くゆるがした。

参加した青年部A君などは、「目の前が暗れわたったような気がする。俺も何かあると泣き言を言ってたけど甘えだと思っ。これからは、本気でたたかってみよう。」と感想を述べていた。

五箇月間の清算事業団闘争を闘いきり、一回り成長、した勤労千葉の新たな反撃の開始にふさわしい出発点としてかちとったのである。

前半は、中野委員長あいさつ、「交流センター」代表運営委員の佐藤氏の挨拶で始まり三里塚から北原事務局長が駆け付け挨拶をうけた。又、北富士忍草母の会と都議会議員・長谷川英憲氏からのメッセージが寄せられ、弁護士から清井弁護士が発言した。

三百名の働く仲間が今秋も闘争に決意！

スト損賠 総決



林(元清算事業団支部長)さんの決意

佐藤昭夫氏 (早稲田大学学教授)、不当処分、スト損賠の不当性を全面的に批判

集会には、佐藤教授(早大)がこのかんの国労支援の経験にふまへ判りやすく一時間余にわたり講演され、参加者もメモをとるなど真剣に学習した。

氏は、分割・民営化の違法性をすく批判し、後半では勤労千葉への処分とスト損賠について、例を見ない暴挙と断罪し労働者全体にむけられた攻撃でもあり断じて許してはならないことが強調された。

秋季闘争への総決起を満場一致確認

田中書記長と国労闘争団から秋田の児玉氏がそれぞれ今後の闘いの基本が力づくよく提起された。

今秋季、自衛隊海外派兵反対・天皇制攻撃との闘いは決定的重要課題であり、この課題と結合し「事業団」闘争、JRの専制支配粉砕の闘いを強める。中でも、「事業団」闘争が仮にも国労中央の和解路線で敗北の道を歩むならば、それは国労の死につながる。彼らを守りきりJR体制を突き崩すため全力を尽くす。このことがガッチリと確認された。

「したたかに仲間を信じ、勝つまで闘う」

会場が一段と盛り上がるなか、勤労千葉の争議

団から林、高石、相原、中村(仁)各氏と家族会を代表し佐藤事務局長からそれぞれ率直な思い、決意が述べられ、それに続き鳴りやまぬ拍手の中、北海道、九州、本州の国労闘争団の登壇である。

「人権を平気で踏みこむる者たちを許せない」「辛くとも仲間を信じがらぶる」「子供も高校、大学を断念し働いている人間としての誇りをかけて闘う」等等、参加者が事業団の仲間に移し置ながら考え、怒り、決意を共有してきた。

生活の重みにまげず、したたかに、腹をすえて明るさを失わず闘いつづける争議団、闘争団に惜しみ無い拍手がおくられ俺たちもヤルゾ、という決意を胸に全国に散った。(尚、カンパは十七万円をこえ、中野委員長からそれぞれの闘争団におくられた。)

又、会場内の即売会は完売しました。



闘争団の即売会は完売、好評であった。

90年代の勝利へ、新たな10年を切りひらこう！